

(様式2)

教職員研究グループ活動状況報告書

代表者の所 属・職・氏名	兵庫県立いなみ野特別支援学校 教諭 栗田 良之助	研究グループ名 いなみ野有志会	78
-----------------	-----------------------------	--------------------	----

研究テーマ分類番号 (18)

(1) 研究テーマ

会議及び研究協議のファシリテーターとしての技術の習得と向上
～合意形成や相互理解～

(2) 研究経過及び具体的な取組

7月 4日 第1回 研修会 (年間の研修内容についての研究協議)

- ・実施場所：県立いなみ野特別支援学校 (高等部1年教室)
- ・参加人数：グループ構成員4名
- ・成果と課題：グループ構成員4名で年間の研修内容について検討、協議を行った。それぞれ前半に実施する研修会及び反省会、研究協議についてはグループ構成員がどのように会議等を進めていくことが効果的であるかを把握するために、ファシリテーター等は実施せず、これまでと同様の形式で進めるようにした。また、会議及び研究協議の全体の司会はグループ構成員が実施するものの、実際に会議及び研究協議を進めていくことは初任研修者が実施していくことにした。ホワイトボードケース会議による研修会の実施後は、各会議及び研究協議等はファシリテーターをたてて、進めていくようにした。

7月18日 第2回 研修会 (初任研修者1学期反省会)

- ・実施場所：県立いなみ野特別支援学校 (応接室)
- ・参加人数：グループ構成員4名+初任研修者6名+指導教官6名+管理職3名
- ・成果と課題：第2回研修会は、初任研修者1学期反省会において協議を行った。協議テーマは「子どもと信頼関係を築くために取り組んだこと」で、協議の司会進行及び記録は初任研修者の1名が行った。ホワイトボードを利用し、子どもとの信頼関係とはどのようなものか、その信頼関係を築くためにどのように取り組んだかを、発表していった。例えば、児童生徒の「ありのまま」を受け止めることや、児童生徒と「友だち」になること等の意見が出た。「友だち」になることについては、小学部では理解されても、高等部では難しいという意見も出ていた。それぞれ同じ学校の中でも生活年齢が違い、発達段階の違う児童生徒がいる中で共通した信頼関係とは、適切に子どもの実態を把握し、少しでもできることを増やしていくことが必要であるということで、共通理解することができた。

8月26日 第3回 研修会 (ホワイトボード・ミーティングによる研修会)

- ・実施場所：県立いなみ野特別支援学校 (多目的室)
- ・参加人数：グループ構成員4名+本校職員26名

- ・研修会講師：(株)ひとまち ファシリテーター養成師
- ・成果と課題： 最初に、ファシリテーター及びホワイトボード・ミーティングの概要について講義を受けた。学校経営又は学級経営に関してトップダウンで進めること、ボトムアップで進めることのメリットやデメリットについて話があった。学校経営又は学級経営ともに、会議を進める上でホワイトボード・ミーティングの活用が有効的であった。続いて、ファシリテーター養成師による実際の事例に基づいてホワイトボード・ミーティング（ホワイトボードケース会議）が進められた。例えば、アセスメントで児童生徒等が「困っていること」をホワイトボードに書き出すことで可視化し、情報を共有し細かく分析することによって児童生徒の強みを活かしながら、行動変容を促すアプローチを全員で考えていくことができた。

本研修会実施後、参加者にアンケート（振り返りシート）を実施し、8名から回収することができた。研修会の全体の感想からは5件法（5大変良い－4良い－3普通－2悪い－1大変悪い）で「大変良い」が7名、「良い」が1名であった。「①気づいたこと、わかったこと、発見したことなど」からの項目では、「ホワイトボードミーティングで、対象児童生徒のことを知らなくても、その子どものことを説明できる要素が20分程で出る、ということが驚きでした」「実際に書き手をした際に、普段の口頭のみでの対話では聞かないような内容まで掘り下げられるため、互いに情報がクリアな状態になり、その情報が自分の中に入る、という感覚を経験した」等の感想があった。「②疑問、質問、わからないことなど」の項目では、「今回、普段あまり話すことのない先生とペアになり、ホワイトボードミーティングを行ったが、親しく、対象生徒のことをよく知っている場合、客観的に見るのが難しいこともあるのでは、と思った。今回行ったように、相手が自分や対象生徒のことを知らない方が、多様な意見が出やすいのでしょうか」等の感想があった。

ケース会議で意見として出された情報が可視化されることによってわかりやすく、情報を互いに共有しやすくなるということがわかった。

10月24日 第4回 研修会（初任者等研究授業及び研究協議）

- ・実施場所： 県立いなみ野特別支援学校（小学部教室）
- ・参加人数： グループ構成員4名＋初任研修者6名＋本校職員10名
- ・成果と課題： 初任者等研究授業の後、研究協議を行った。今回の研究協議はこれまでと同様の形で協議を行った。まず最初に、授業者（初任者）より今回の授業に関する目標や授業の流れ、実施後の感想等があった。その後、授業のビデオを見て、次に今回の授業にチーム・ティーチングで入っている教師より反省があった。また、その他の授業見学者よりコメントがあり、最後に指導教官よりまとめの言葉があった。

課題としては、研究協議が機械的に進められているところがあり、順番に授業見学者から感想（良かった点・悪かった点）をもらっているだけという側面があった。それぞれの意見を出し合って、議論を伴うものにはなっていない。

そのため、研究協議の内容自体が深まっていけない。授業者にとっても、その他の参加者（見学者等）にとっても、実りの多い研究協議になっていない様子であった。今後は研究協議の司会がファシリテーターとなることが、よりよい研究協議のひとつとなると考えられた。

1 1月27日 第5回 研修会（ホワイトボード・ミーティングによる校内研修会）

- ・実施場所：県立いなみ野特別支援学校（高等部1年教室）
- ・参加人数：グループ構成員4名＋初任研修者6名
- ・研修会講師：本校職員（ファシリテーション研修講座受講者）
- ・成果と課題： 第3回のホワイトボード・ミーティングによる研修会を受けて、本校職員だけのホワイトボードケース会議を実施した。ファシリテーターは、民間で実施されているファシリテーション研修講座を受講した経験のあるグループ構成員の1名が行った。ホワイトボード・ミーティングの前に、ファシリテーターが導入で①4分割自己紹介、②500円玉当てを行った。4分割自己紹介は研修会受講者らの自己紹介と研修会の雰囲気づくりが目的であった。研修会中にお互いが呼び合うニックネームや自分の趣味などを一枚の用紙に書いた。次に、

それをもとに隣の席の教師とオープン・クエスチョン形式で自己紹介を行った。500円玉当ては、ホワイトボード・ミーティングで必要な情報提供者を決めるために行った。500円玉の大きさを思い出して、用紙に円を書いた。その大きさが、一番500円玉の大きさに合っていた教師が情報提供者となった。

今回のホワイトボードケース会議は第3回のホワイトボード・ミーティングの研修会のテキストに沿って進めた。ケース会議の流れとしては、①情報共有、②アセスメント、③支援指導計画、④支援／観察、とあるが、今回は支援指導計画まで進めることができた。

成果としては、ファシリテーターからは、今回の研修会参加者がケース会議の場で、話しやすそうにしていた。これまでのような堅苦しいケース会議ではなく、参加者が気軽に意見を言えるようになっていた。「思ったことを、気兼ねなく言っていい」ものだということを少しずつ理解できた様子であった。ファシリテーターとして環境構成、雰囲気作り等の意図を参加者が理解できてきたような様子であった。課題としては、研修時間が限られているために、本来の手順通りに進めようとする、もう少し時間が必要であった。また、ファシリテーターとして、出された意見をまとめる難しさもあった。今後においては、今回の研修会をどのようにして活かすか、会議参加者が同じ着眼点を持って参加したり、一定のテーマがあった中で議論していくことが必要である。